

全床に見守りセンサー設置で介護負担軽減

2018年8月30日、医療法人社団みなみつくば会が運営する介護老人保健施設「プレミエール元気館筑西」(100床)の全床へ見守りセンサーを導入しました。

全床に設置したのは「Happiness 絆」。

ベットマットレスの下の無線センサーで身体情報を測定し、パソコンなどの端末でリアルタイムに表示されます。

バイタル機能では、センサーで睡眠中の利用者様の「体動」「呼吸」「脈拍」「離床」の情報を取得します。体に一切接触することがないため、ご本人が負担に感じることなく体調の変化を素早く察知できます。



▲無線センサー



▲モニター

その他「血压」「体温」「酸素飽和度」の情報は、職員が計測すると同時にリアルタイムでシステムに反映されるため、手記入やパソコン入力の作業がなくなります。

夜間帯の不要な訪室により介護される側と介護する側、双方の心理的不安を減らす事にも繋がります。このシステムの導入で、夜勤時の職員1人当たりの負担を軽減すると考えます。

来月9月には、同システムを当法人の介護付有料老人ホーム「サンシャイン・ヴィラ守谷倶楽夢」(87床)にも導入する予定です。

今川医療福祉グループでは、介護ロボットやIoTなどを活用し、職員の負担軽減に努め、働き方改革の実践に取り組んでいます。